ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和7年度 介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式

生産性向上ビギナーセミナー

介護サービスの生産性向上の基本と取組のポイント

2025

株式会社TRAPE
代表取締役 鎌田大啓

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

本日のアジェンダ

- なぜ今、生産性向上が必要なのか？
- 介護における生産性向上とは何なのか？
- どのように改善活動を進めていけばいいのか？
- 生産性向上関連の加算と どう向き合えばいいのか？

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

自己紹介

鎌田 大啓（かまた ともひろ）
株式会社TRAPE 代表取締役
大阪大学 医学部保健学科 医学系研究科 招聘教員

厚生労働省 各種委員

平成28年度 厚労省「介護サービス事業における生産性向上に向けた調査事業」作業部会委員

平成30年度 厚労省「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン作成事業」検討委員会委員
（株式会社TRAPEとして西日本エリアの介護事業所に対する現場介入実施、その成果をガイドラインに反映）

令和元年度 厚労省「介護施設等における生産性向上に資するパイロット事業」熊本県パイロット事業一式を受託しガイドラインの改定版作成に携わる

令和2年度 厚労省老健事業「介護現場における持続的な生産性向上の取組みを支援する調査研究事業」調査検討委員会　委員

令和3年度 厚労省老健事業「介護現場（在宅系サービス）における持続的な生産性向上の取組を支援・拡大する調査研究事業一式」調査検討委員会委員

令和4年度 厚労省「介護現場における生産性向上」における各種委員会 委員

令和5年度 厚労省「介護事業所におけるデータ連携による生産性向上に関する調査研究」委員会 委員

令和5年度 厚労省「介護事業者の経営状況と生産性向上の影響の分析に関する調査研究事業」調査検討委員会 委員

令和6年度 厚労省「介護現場の生産性向上に関する普及加速化事業一式」（「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」の改訂など）検討委員会　委員

令和6年度 厚労省「介護現場の生産性向上に向けた介護ロボット等の開発・実証・普及広報のプラットフォーム事業」作業部会委員

令和6年度 厚労省「地域における面的なケアプランデータ連携の促進に向けた調査研究事業」検討委員会 委員

令和7年度 厚労省「介護情報基盤の活用促進を見据えたケアプランデータ連携効果測定等事業一式」検討委員会 委員

令和7年度 厚労省 障害者総合福祉推進「障害福祉現場の生産性向上に向けた調査研究事業」委員　など他多数

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

株式会社TRAPE（トラピ）のご紹介

生産性向上くん®

介護現場の生産性向上の取組
成功させる鍵となる
準備8割 チーム作り 課題の見える化
をサポートするために生まれました

生産性向上ガイドラインに準拠

現場のリアルな「今」を把握するための
「アンケート」や「タイムスタディ」を何度でも実施できます

利用料ずっと0円

Sociwell ソシウェル

事業所の生産性向上・人材育成・経営改善

since2020

- **現場の働きがい向上**のための6ヶ月実践プログラム
- 経験学習により**ミドルリーダーがマネジメントを習得**
- 自分たちで課題が解決できる**現場自律力**をつける

フルオンラインで「伴走支援」を行い、数多くの事業所が成果を生み出しています

都道府県・市町村事業

企画-実行-成果創出まで一気通貫の事業パートナー

- **モデル事業を通じた政策支援、エビデンス創出**
- **生産性向上の推進、介護DX推進、地域内横展開**
- 介護予防推進、成果創出に向けた政策見直し支援

伴走支援

No Role
No Life

素敵な役割のあふれる日常を創る
well-being

会社所在地：大阪（新大阪駅 徒歩8分）
特徴：全国各地にメンバーが在籍し、
フルリモートで柔軟に働いています

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

さまざまな伴走支援の例

ケアプランデータ連携システム-モデル事業

山梨県ケアプランデータ連携促進に向けた「伴走支援」　富士河口湖町をモデルに実施

山梨県・山梨県社会福祉協議会 「ケアプランデータ連携促進モデル事業」に株式会社TRAPEが採択 ー「個別とグループ」2種類の伴走支援により地域全体で進める生産性向上の取組みを支援 ー

TRAPE　2024年12月23日 13時29分

介護分野における生産性向上ガイドラインの作成など、2017年の黎明期から国のさまざまな施策づくりに深く関わり、ウェルビーイングに溢れた介護事業所を創出するために「生産性向上」「働きがい向上」「リーダー育成」の3つを一度に実現することができる生産性向上伴走支援サービス「Sociwell（ソシウェル）」を展開している株式会社TRAPE（本社：大阪府大阪市、代表取締役社長：鎌田大徳）は、この度令和6年度山梨県・山梨県社会福祉協議会 「ケアプランデータ連携促進モデル事業」に採択されましたのでお知らせいたします。

モデル事業説明会の様子

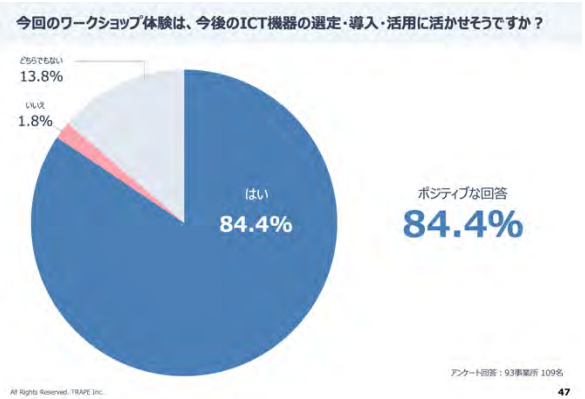
遠隔操作機能により弊社が事業所のPC操作を直接手伝い
ケアプランデータ連携システムの導入支援を行うことも可能です
導入に対する心理的ハードルを軽減します

ケアプランデータ連携システム体験会の様子

効果的なテクノロジー導入・活用に向けた実践セミナー

準備8割ワーク

テクノロジーとの向き合い方講座



介護助手-モデル事業

デイサービスの経営改善プロジェクト

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護における生産性向上施策の変遷と展開

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護における生産性向上施策の変遷と展開

2017

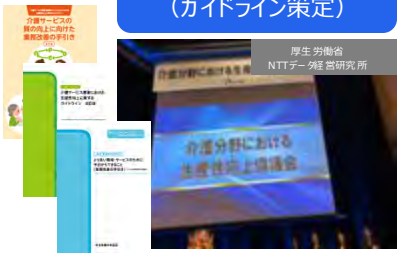
生産性向上国民運動推進協議会事業

介護業界で「生産性向上」という言葉が公に登場

事業所への伴走支援

2018

生産性向上モデル事業（ガイドライン策定）



実際に伴走支援を行った事業所での取組みエッセンスを元に生産性向上ガイドラインを制作

事業所への伴走支援
生産性向上の取組ステップをガイドラインに型化

「ICT導入支援事業」
「介護ロボット導入支援事業」

2019

介護現場革新会議パイロット事業

自治体向けガイドラインを制作

熊本県パイロット事業
事業所への伴走支援
働きがい成果指標の測定を独自に開始

2020

生産性向上全国セミナー（ビギナーセミナー）

全国の介護事業所向けに現場改善のきっかけを生み出すセミナー

事業所への伴走支援
事業所からの個別相談

介護ロボット普及プラットフォーム事業
（相談窓口・リビングラボ・実証フィールド）

2021

生産性向上全国セミナー（フォローアップセミナー）

セミナー内での対話を通じて取組みの中で生じた課題を解決

事業所への伴走支援
事業所からの個別相談

2022

介護ロボット普及プラットフォーム事業（伴走支援）

ロボット相談窓口でモデル事業所への伴走支援

ロボット窓口に対する各種事業支援
全国1/3の窓口の業務アドバイザー
事業所への伴走支援

2023

介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）

生産性向上の取り組み都道府県を中心に展開へ

ケアプランデータ連携システム

あおもり介護生産性向上相談センター様
各種事業支援
ロボット窓口に対する各種事業支援
事業所への伴走支援

デジタル中核人材

報酬改定加算

2024

介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）

生産性向上関連加算

ワンストップ窓口様
各種事業支援
ロボット窓口に対する各種事業支援
事業所への伴走支援

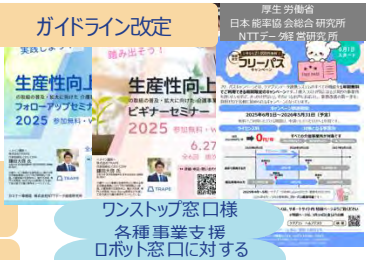
ガイドライン改定（中間取りまとめ）
ワンストップ窓口の運営支援手引き改定

2025

介護生産性向上総合相談センター（ワンストップ窓口）

地域を支えるワンストップ窓口さらに発展

ガイドライン改定



ワンストップ窓口様
各種事業支援
ロボット窓口に対する各種事業支援
事業所への伴走支援

CARISO
CARe Innovation Support Office

TRAPEが関わりを持たせていただいた事業

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

なぜ今、生産性向上が必要なのか？

介護現場を取り巻く社会的背景と生産性向上の取組の必要性

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護事業所から聞こえてくる２つの声

現状(課題)

何かバタバタして忙しい…

突発業務に追われてしまう…

残業が多く、休暇もとりにくい…

書類業務に追われてしまう…

テクノロジー機器を導入したが
うまく活用できていない…

利用者と過ごす時間を思うように
取れない…

ありたい姿

落ち着いて業務に向き合うことが
できている

残業がなく、休暇がしっかり取ること
ができている

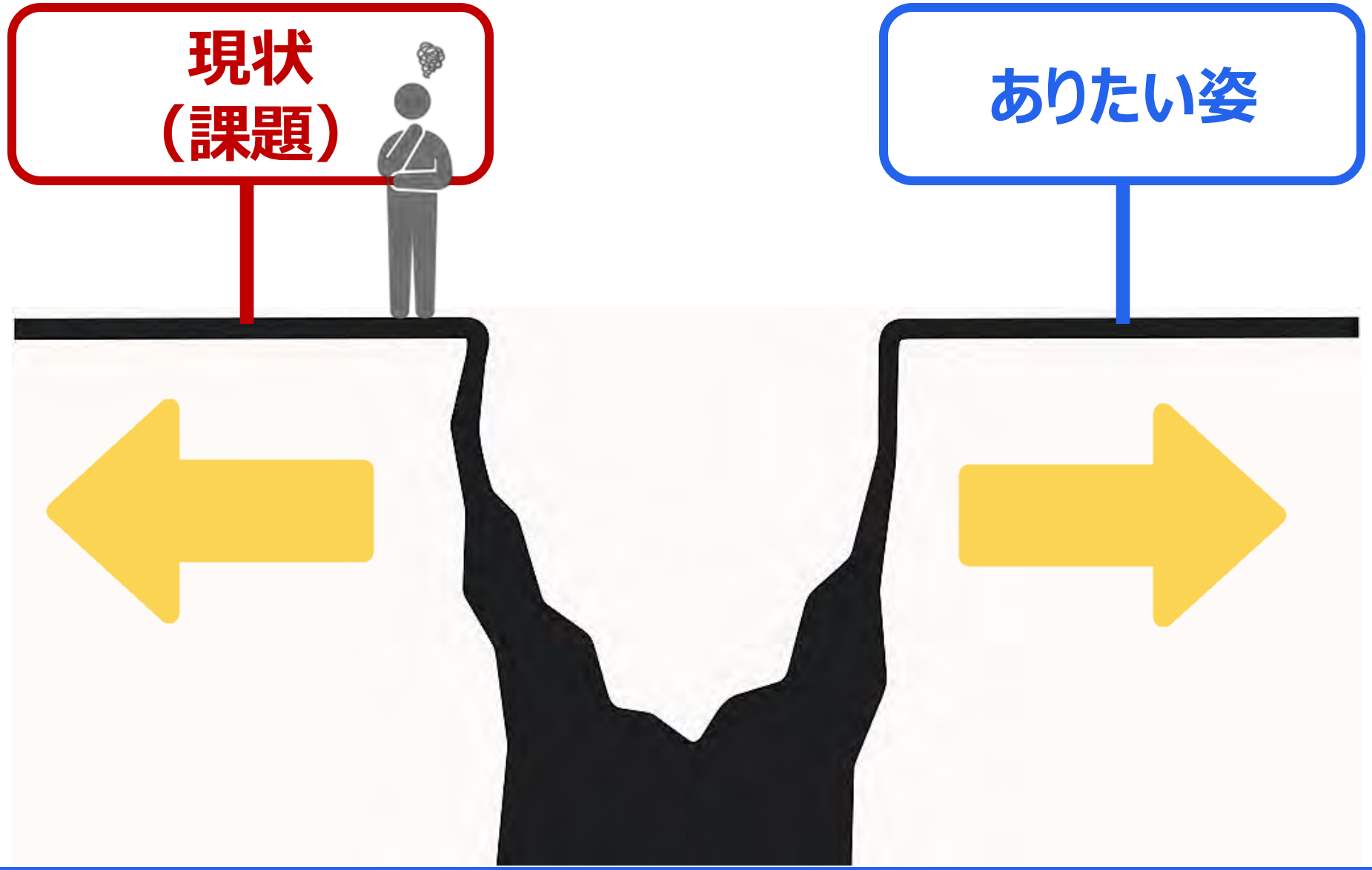
スマートに書類業務を行うことが
できている

テクノロジー機器を活用して、いいケア
の実現に力を込めることができている

利用者とたくさん過ごす時間を生み出
すことができている

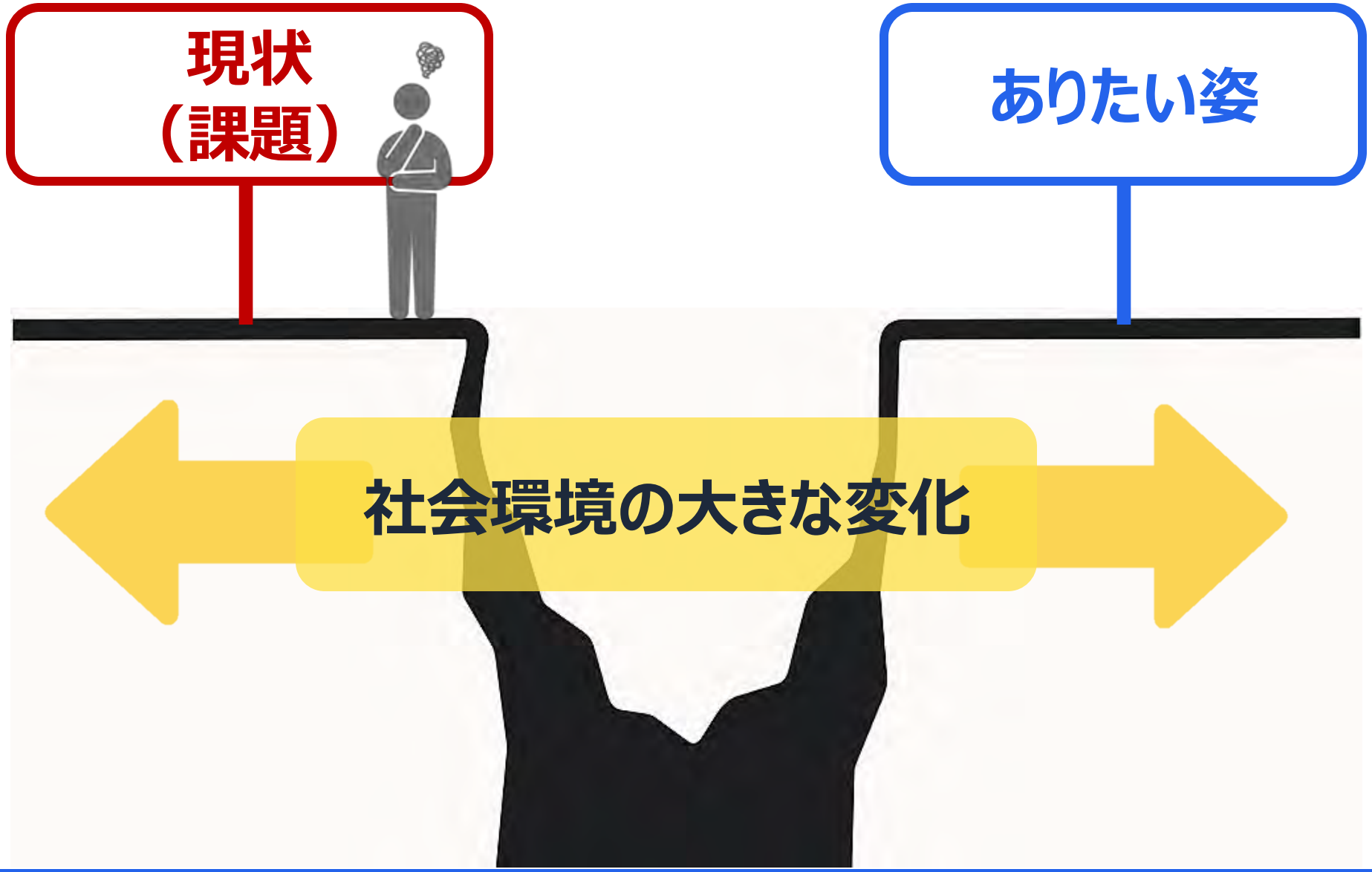
All Rights Reserved. TRAPE Inc.

現在は、「ありたい姿」と「現状」の間にギャップが生じやすい状況



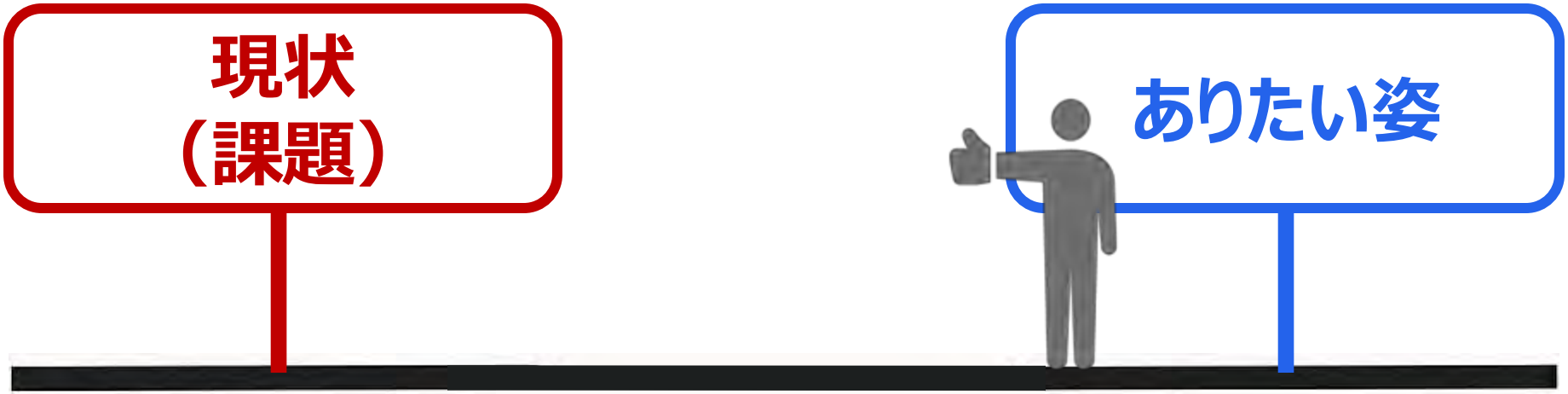
All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ギャップを生み出す要因は「社会環境の大きな変化」



All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ギャップを縮める方策の１つが「生産性向上の取組み」



生産性向上の取組み

社会環境の大きな変化への対処方法は
自らを変革し、環境に適応する

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

社会環境の変化

外部環境はさまざまな変化の連続

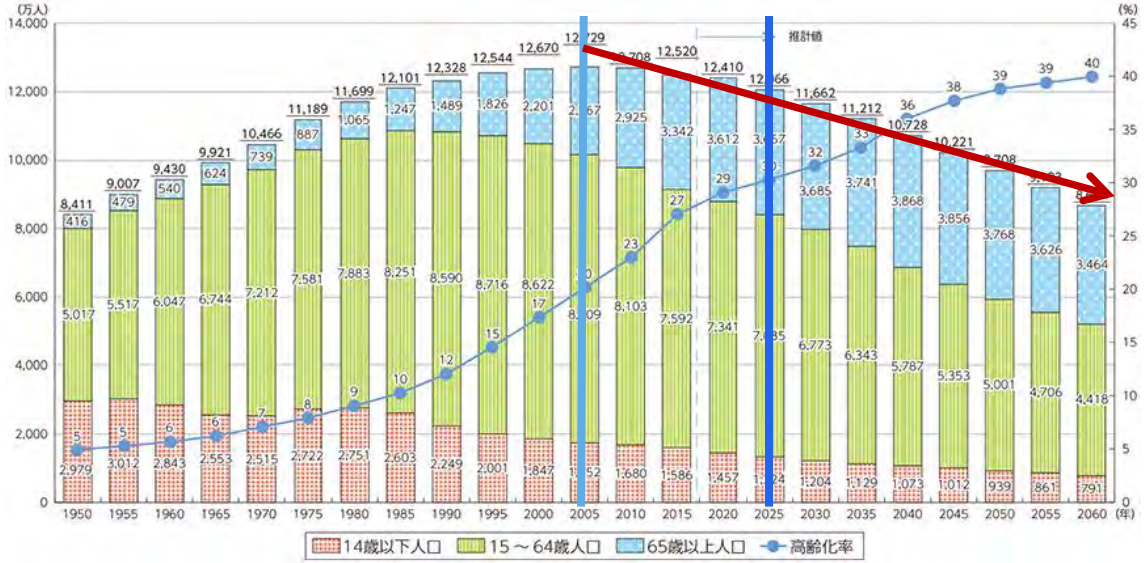
人口構造の変化

テクノロジーの進化

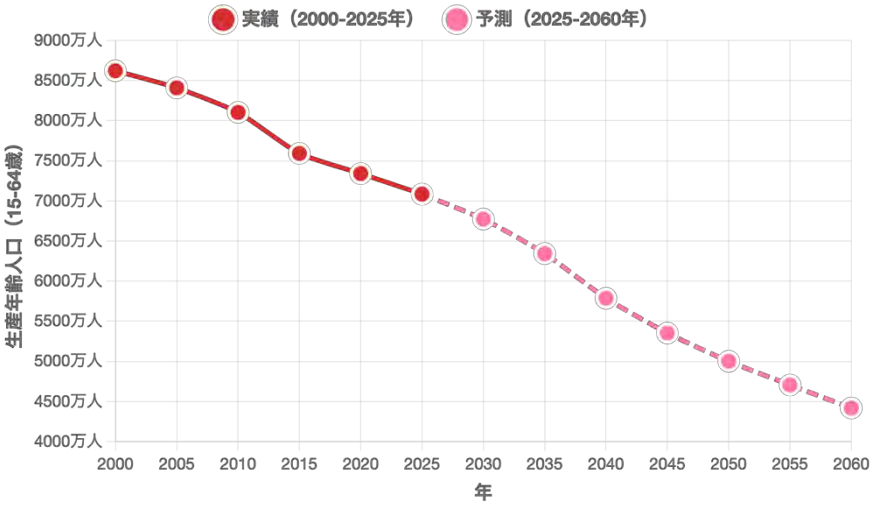
All Rights Reserved. TRAPE Inc.

「ひと」についての現状

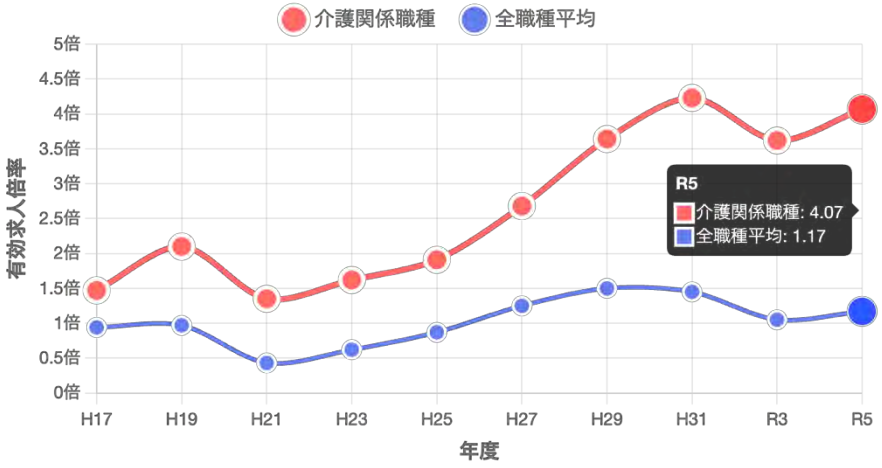
人口の推移と予測



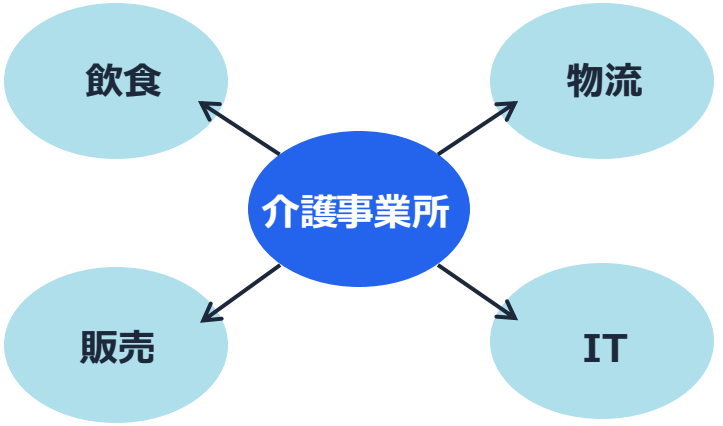
生産年齢人口（働き手）の推移と予測



有効求人倍率の推移（平成17年度～令和5年度）



他業界への転職



All Rights Reserved. TRAPE Inc.

「ひと」との向き合い方のアップデート

人口減少による人の希少価値の高まり

（職員、利用者・家族）

人的資本経営への転換

- 職員を「利益や価値を生む存在」として、"資源"ではなく"資本"と位置づけ、投資の対象として捉える
- 一人ひとりの成長と貢献を促進する環境づくりを進める

利用者中心のサービス革新

- 利用者とその家族が「自分らしく生きること」を支援する新たなサービスを生み出す
- 利用者満足と職員のやりがいを同時に高める好循環を生み出す

人への積極投資

職員への「いい体験」の提供

- **「働きやすさ」**という土台の上に**「働きがい」**を生み出せる環境を構築
- 介護職の働きがい ＝ 利用者と関わる中で生み出される傾向にある

発展する組織へ

- 人材の**育成・定着・確保**の好循環により、社会環境の変化に適応しながら成長し続ける組織文化を構築

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

入職と離職の理由

現在の仕事（職種）を選んだ理由

働きがいのある仕事だと思ったから	42.3%
資格・技能が活かせるから	29.5%
人や社会の役に立ちたいから	27.4%
今後もニーズが高まるから	26.6%
お年寄りが好きだから	19.0%

入るときは
ビジョン・夢がある

マネジメントが機能していないことにより起こりやすい

現実とのギャップ

直前職を辞めた理由

職場の人間関係に問題があったため	34.3%
法人や施設・事業所の理念や運営のあり方に不満があったため	26.3%
他に良い仕事・職場があったため	19.9%
収入が少なかったため	16.6%
その他	13.6%

自分たちの職場の現実に
挫折してしまう

出典：令和5年度介護労働実態調査（介護労働安定センター）

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

職員の「働きがい」は重要な 経営指標

働きがいの高い職場

収益性向上	+22%
生産性向上	+21%
顧客満足度 サービス品質向上	+10%

働きがいの低い職場

欠勤率増加	-37%
離職率悪化 （元々低い職場）	-65%
離職率悪化 （元々高い職場）	-25%
事故率増加	-50%
品質の欠陥 サービス品質向上	-41%

上位25%・下位25%のチームの中央値の差。Gallup, Inc.調べ

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

テクノロジーの進化は、私たちの活動の中に深く浸透している

日常生活で身近になったテクノロジー

介護ロボットの
導入支援事業

介護分野における
ICT導入支援事業

LIFE創設

ケラプランデータ連携

テクノロジー活用
への加算創設

介護業界においても
テクノロジー導入が急速に進んでいる

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護テクノロジー利用の重点分野の全体図と普及率

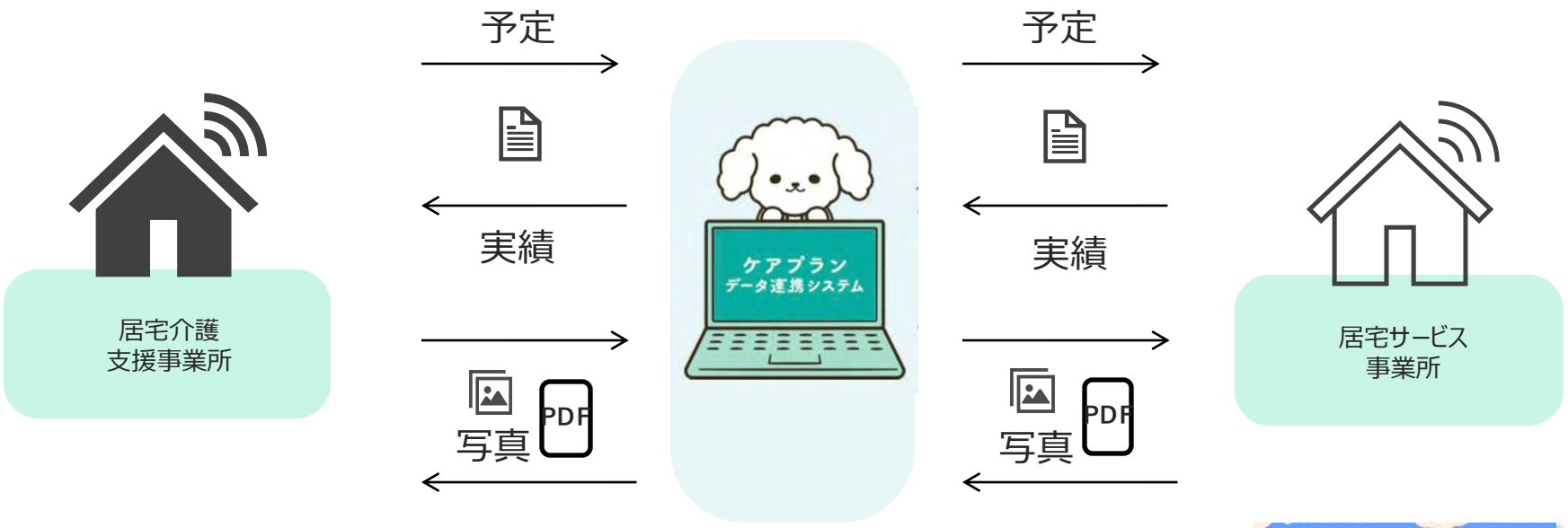
９分野16項目

厚生労働省HPより
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634_00013.html

介護テクノロジー利用の重点分野
９分野・１６項目のご紹介

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ケアプランデータ連携システム



メリット

- 転記作業の削減
- ヒューマンエラーの防止
- 業務効率の向上（本業に集中できる）
- コスト削減
- 情報伝達の迅速化・正確化
- 多職種連携の強化　など

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

「活動-テクノロジー」との向き合い方のアップデート

人がテクノロジーを使う理由は極めてシンプル
「便利だから」「ワクワクするから」

活動との向き合い方をアップデート

- テクノロジーの活用は、私たちの行動の選択肢を広げ、これまでにない体験の深さと豊かさを可能にする
- テクノロジーを活用して活動をアップデートするということは、自分が「どの活動を、どのように変えたいのか」、その目的と方向性を自らイメージすることから始まる

体験価値の向上に注力する

- テクノロジーを活用することで自分、他者が欲している便利さ、ワクワクさを生み出していく
- 体験価値を感じないと、持続的活用や発展的活用に繋がらない

テクノロジー リテラシーの向上

- 学んでからやるより、体験しながらおぼえていく
- 一人ひとりがテクノロジーの活用に対して、自分なりのワクワク感、意味づけを持てるようにすることが重要

テクノロジーを活用しても、人や組織の考え方が従来のままではそのギャップがかえって現場の負担となり、生産性を下げてしまう…

例） Amazon

- Amazon操作が目的の人はいない → みんなその後の世界にワクワクしている [自分なりの体験価値を持っている]
- Amazonを使って探索していく中で、さまざまな使い方を見つけ、実際に体験していく

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護における生産性向上とは何なのか？

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護における生産性向上とは？

目指す成果

介護の価値を高める

プロセスの改善

現状・課題

アウトカム

利用者・家族 ＝ より良いケア（選択のある人生）
職員 ＝ 働きやすさ・働きがい　新たな体験価値創出

アウトプット

現場の余力を生み出す
（時間・気持ち）　業務オペレーションの効率化・省力化、コスト削減

現場で新たな取組み要素も活用
（テクノロジーや介護助手）

現場業務における
マネジメントの構築

現場の課題
（ムリ・ムダ・ムラ）

生産性向上の取組みは、足元（現状・課題）から頂上（目指す姿）へと山登りをするように一歩ずつ進めていく

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

業務改善とは？

業務改善とは、組織や個人が行っている仕事のプロセス、方法、仕組みを見直し、より効果的で効率的な状態に変えていく活動のこと

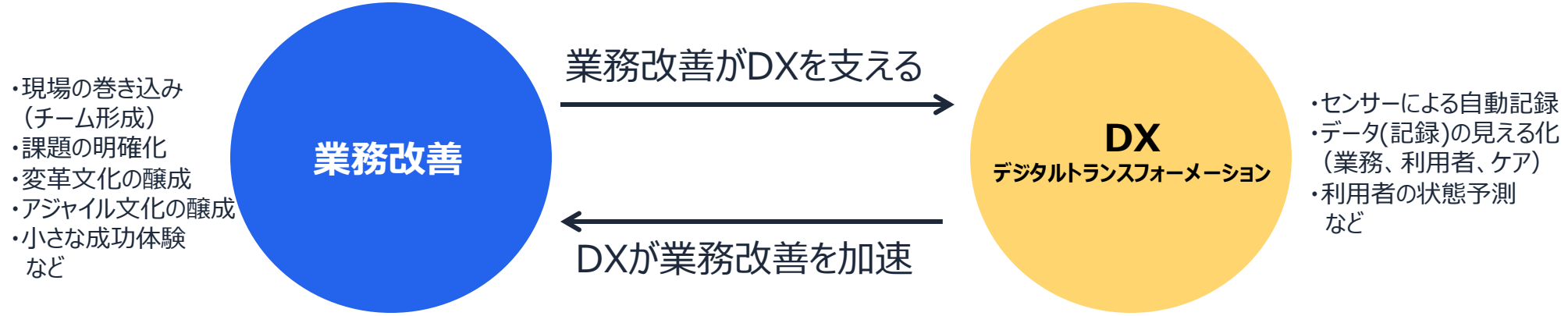
重要なポイント

- 生産性向上への重要なステップ
- 組織の基盤力を高める活動
- より高次の価値創出につながる取り組み

注意すべきポイント

- 「改善のための改善」にならないよう注意

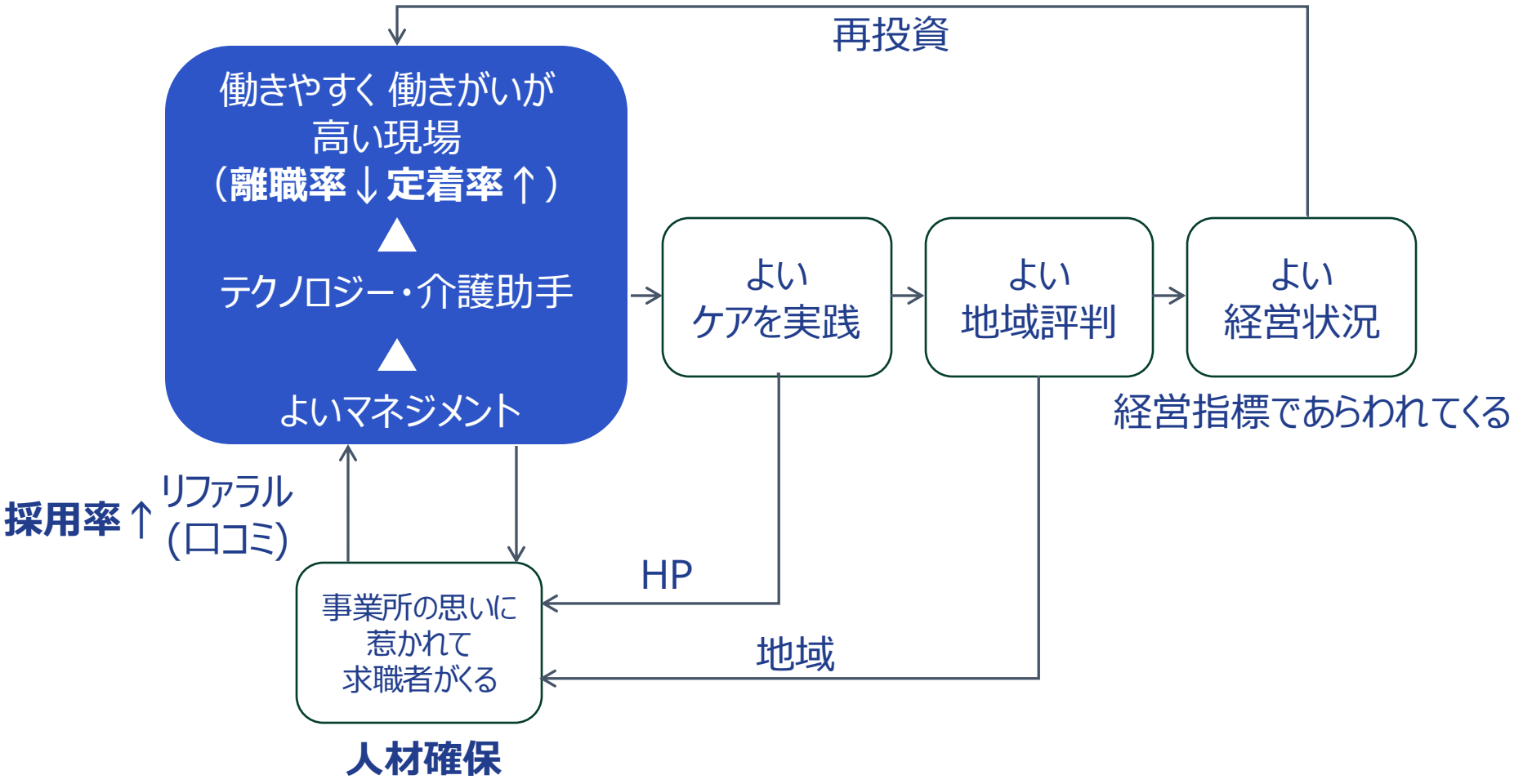
常に自問すること
・「何のために改善するのか？」
・「誰のために改善するのか？」



業務改善とDXの関係性

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

働きがいの高い現場は、組織に好循環を生み出す

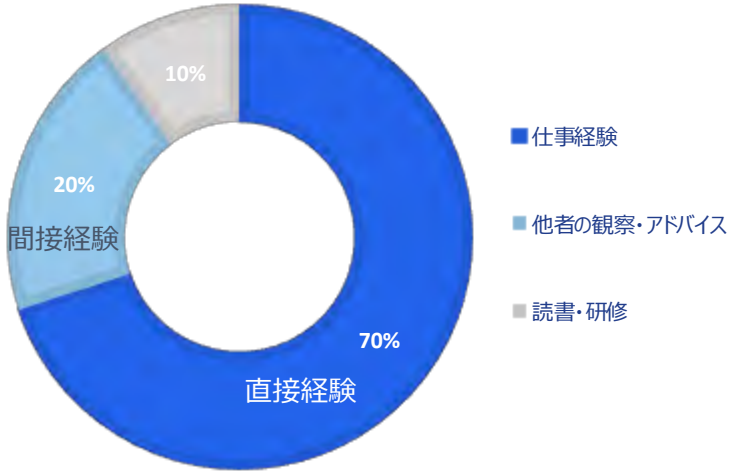


<介護事業所の経営における因果関係図>

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

生産性向上の取組み(DX含む)は、最高の自律的人材を育成できる

成人における学び・成長
70:20:10の法則



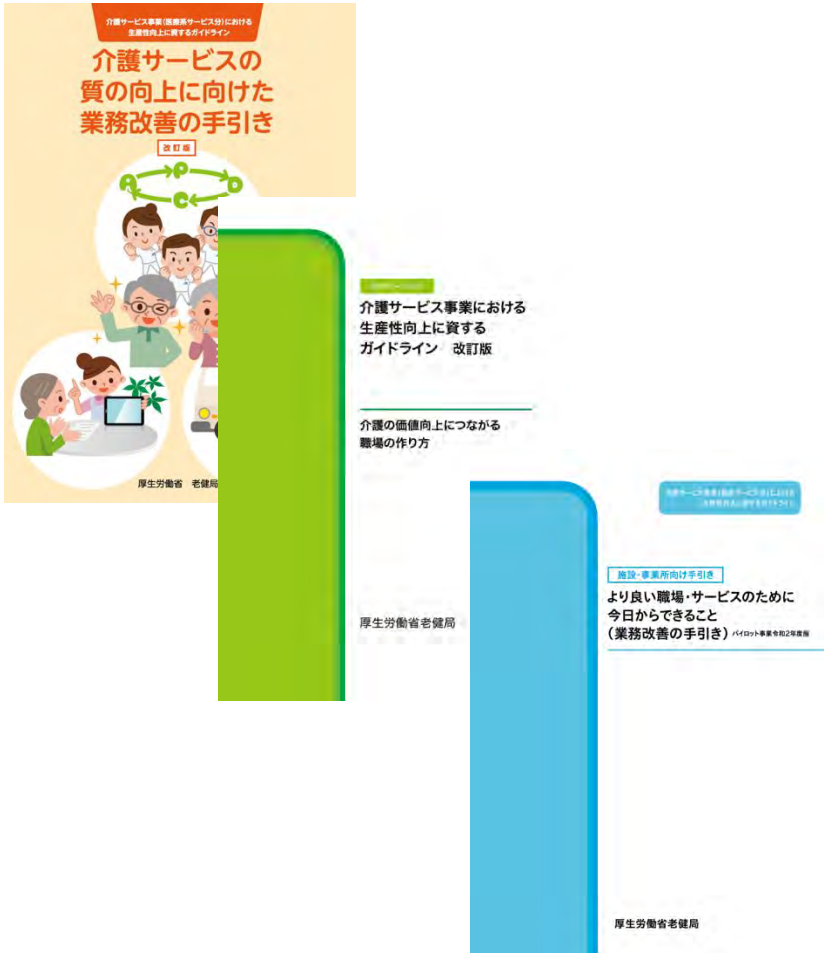
経験学習サイクル

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

どのように改善活動を進めていけばいいのか？

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

生産性向上ガイドライン－事業所の取組みを後押し



「介護ロボットパッケージ導入モデル」P2より抜粋

本冊子の構成

本冊子の構成は、生産性向上ガイドラインの中で「業務改善に向けた改善活動の標準的なステップ」として示されている Plan(計画) → Do(実行) → Check(評価) → Action(修正) の手順に沿っています。Do(実行) については、令和３年度介護ロボット等の効果測定事業において効果検証を行った施設での取組事例を紹介しています。

また、付録として、「介護ロボットの導入を通じて目指すもの」から始まる「介護ロボット導入のためのフローチャート」を掲載しています。これから初めて介護ロボットを導入する施設・事業所はもちろん、既に介護ロボットを導入している施設・事業所における追加検討の参考に活用いただくことを想定しています。

出典）厚生労働省
「介護サービス事業（施設サービス分）における生産性向上ガイドライン」

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

FOMOの罠 に陥らないようにしましょう

※FOMO：Fear Of Missing Outの略
「取り残させることへの恐れ」という意味

「他事業所が新たなテクノロジー機器を入れたらしい。うちも導入しないと…」

「生産性向上やDXが話題。とりあえず何か始めなければ…」

「とりあえず委員会作っちゃおうか…」

焦らなくても大丈夫です！

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

改善活動の標準的な6ステップ

“要注意”
ここからスタートはリスクが高い！

いきなり
・テクノロジー機器選定・導入
・介護助手導入
・アナログ的改善活動開始

ありたい姿
理念・ビジョン・ミッション・バリュー
DXビジョン
DX戦略
テクノロジーを活用する場合

ステップ⑥
実行計画を練り直す

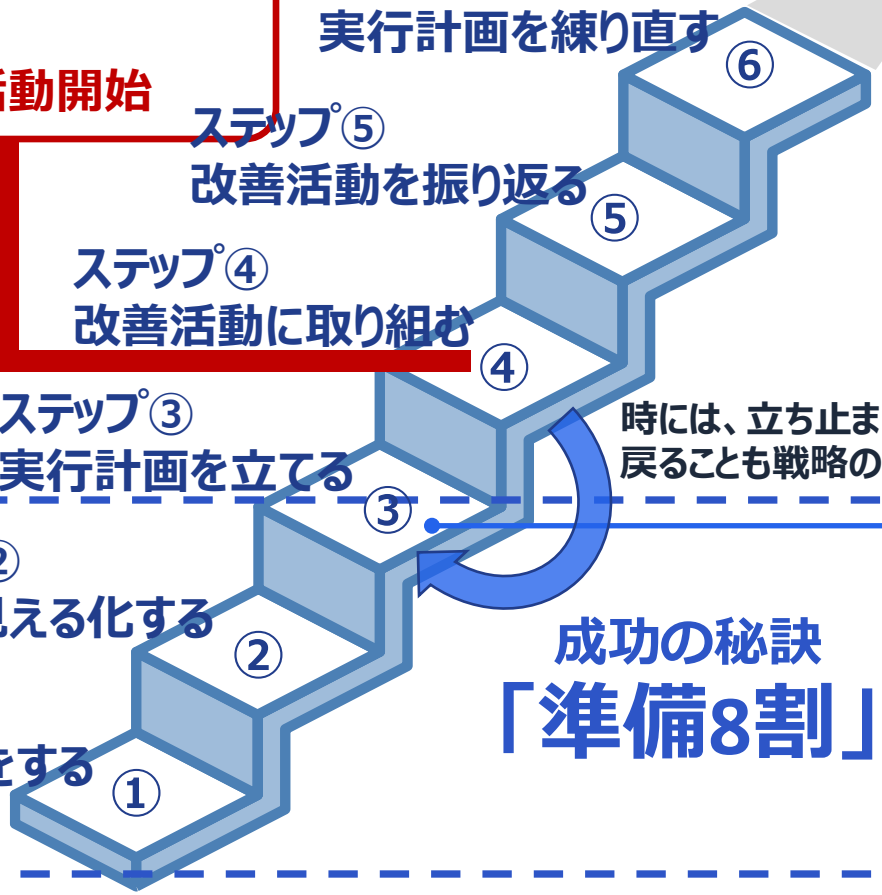
ステップ⑤
改善活動を振り返る

ステップ④
改善活動に取り組む

ステップ③
実行計画を立てる

ステップ②
課題を見える化する

ステップ①
改善活動の準備をする



時には、立ち止まり
戻ることも戦略の１つ

成功の秘訣
「準備8割」

業務改善による生産性向上のためのアプローチ

- アナログな業務改善
  (職場環境の５S、手順書)
- 介護助手などの活用
- テクノロジー導入・活用

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

介護現場における典型的な改善活動の取組内容

1.職場環境の整備

2.業務の明確化と役割分担
業務全体の流れを再構築

3.業務の明確化と役割分担
テクノロジーの活用

4.手順書の作成

5.記録・報告様式の工夫

6.情報共有の工夫

7.OJTの仕組みづくり

8.理念・行動指針の徹底

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ステップ１
改善活動の準備をする
「チームを作る」

1	経営者が今後の経営と向き合う（変革への思いをもつ）	経営戦略として生産性向上に取り組む
2	プロジェクトを立ち上げるチームづくり（委員会）	ガイドラインを基に、課題の抽出・現状整理・業務改善策の検討・振り返りなど、委員会の議事運営を段階的に進める 特に、3か月に1回以上の開催
3	外部研修を活用する	厚生労働省「介護分野における生産性向上ポータルサイト」なども積極的に活用する
4	取組む場所を決める（小さく始める）	例：ユニット、フロア、事業所
5	目的を共有する（キックオフ）	経営者の本気の語りは現場を動かす

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

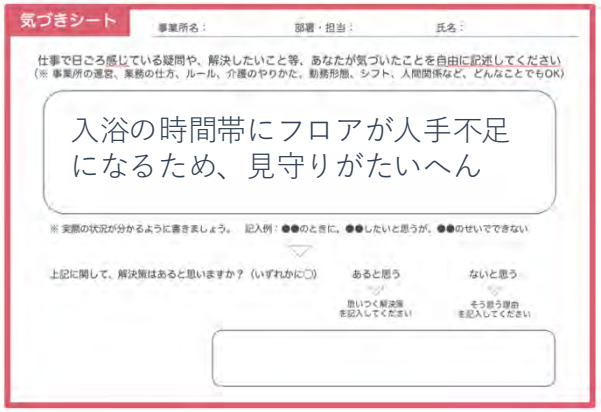
ステップ2
課題の見える化をしよう

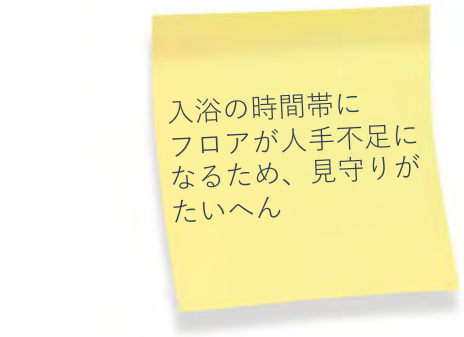
1	現場から課題を多く出してもらう	職員の声をできるだけ多く集める
2	課題を整理/解釈するー因果関係(図)	集めた課題をそのままにせず、対話を通じて意味づけを行い、現状を整理することで、自分たちの現場の実態を把握し、業務改善策の検討に向けた土台をつくる
3	課題を絞り込む	多様な課題の中から、優先的に取り組むべき対象を検討・選定する
4	絞り込んだ課題をデータ検証する	みんなから出た声（課題）をデータとして見える形にすることで、「なぜそれが課題なのか」を自分たちのこととして、より深く理解できるようになる

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ステップ2
課題の見える化をしよう－現場の状況を知るための手段はさまざま

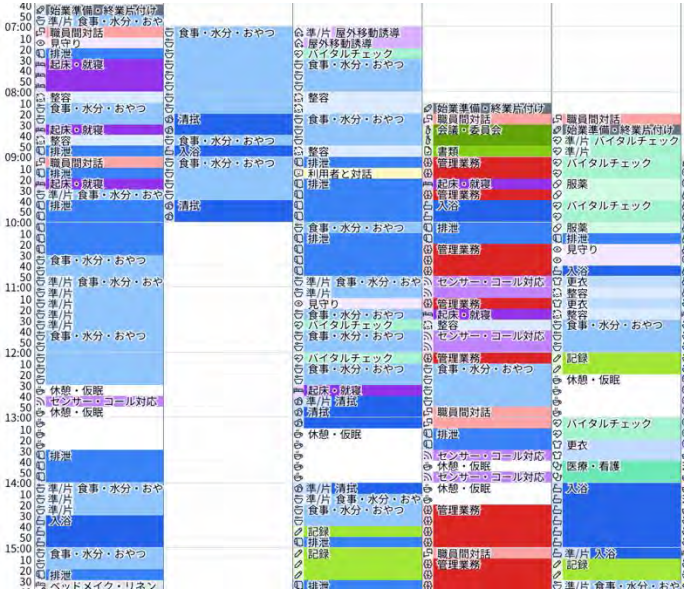
気づきシート





アンケート

タイムスタディ



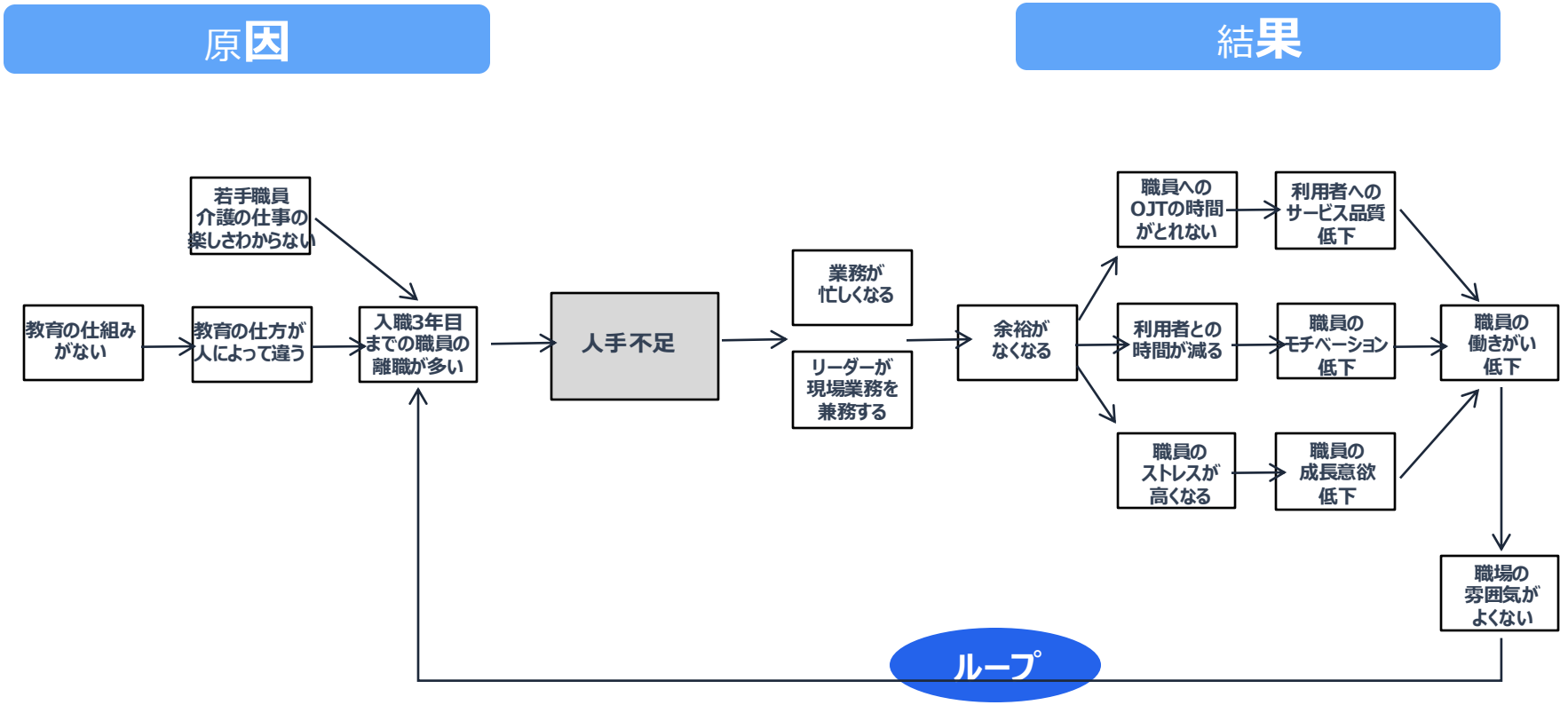
業務ランキング

チームでの対話・内省・解釈が重要

心理的安全性の高い環境づくり

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

[参考] 因果関係図



因果関係図とは、自分たちの現場で起きている課題について、「原因」と「結果」のつながりを整理し、課題の構造や背景、現場の状況を俯瞰的に理解するのに役立つ図です

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ステップ3
実行計画を立てよう

1	取り組み課題について業務を棚卸しする	取り組む課題の業務の工程を出してみる 業務仕分け－直接業務・間接業務 業務全体の流れと向き合う
2	改善すべき業務工程とありたい姿を明確にし 課題解決に必要な状況(要素・機能)を整理する	業務工程の中で、変えるべきことと変えなくてもよいことを明確にする。そして、変えるべき工程については、どのような状態にしたいのかを明確にする
3	改善活動のアプローチを選択する （例：アナログな業務改善、介護助手など活用、テクノロジー活用）	どのような状況を目指すかによって、改善活動に必要な取組み要素は変わってくる。だからこそ、自分たちの現状や目的に合った手段を選ぶことが重要 例：直接業務→「テクノロジー活用」へ 例：間接業務→「介護助手」「ケアプランデータ連携システム」へ 例：業務全体の流れ→「マスターライン」へ
4	アプローチ内容を具現化する （アプローチ仮説を作る）	選んだ手段について、業務工程の中で「誰が・いつ・どこで・どのように活用するのか」を明確にし、具体的な取組み仮説を立てる
5	KPIを立てる	定量データ（数値で表現できるデータ）：時間、回数、件数… 定性データ（言葉・印象・感覚で表現されるデータ）

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

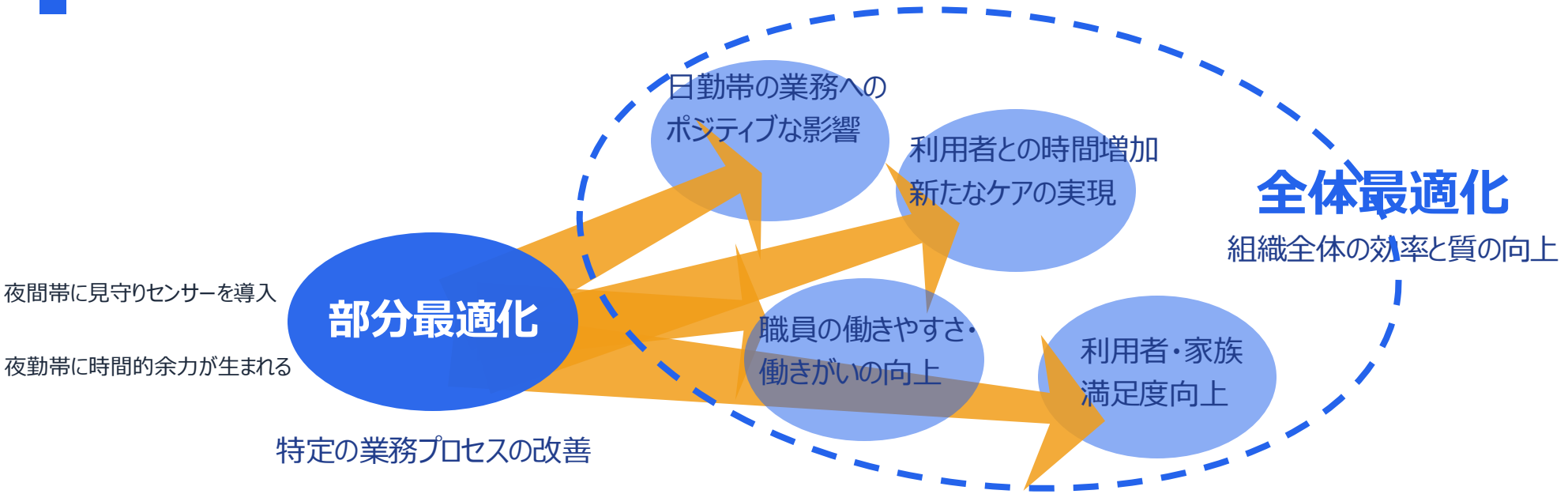
ステップ4
改善活動に取り組む

1	小さな行動を重ねる	毎日の積み重ね 打席に立ち続けることが重要 アジャイルに行く
2	トライ＆エラー（仮説-検証繰り返す）	失敗を恐れない。失敗で終わらなければ、それは学び（ラーン）となっている
3	チームで取り組む	個人プレーは真の成果を生み出さない （継続的な取り組みになりにくい）
4	対話と内省を繰り返す	日々、変化していく自分たちの現状を実感し、仲間と共有することで、新たな気づきを得て、次の取り組みに活かしていく

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ステップ5
改善活動を振り返ろう

1. 成果/達成度を確認する(定量・定性)　ステップ２やステップ３で行ったことと対比する
2. 振り返りの対話・分析をする　うまくいったこと、うまくいかなかったことについてみんなで対話して新たな気づきを得る

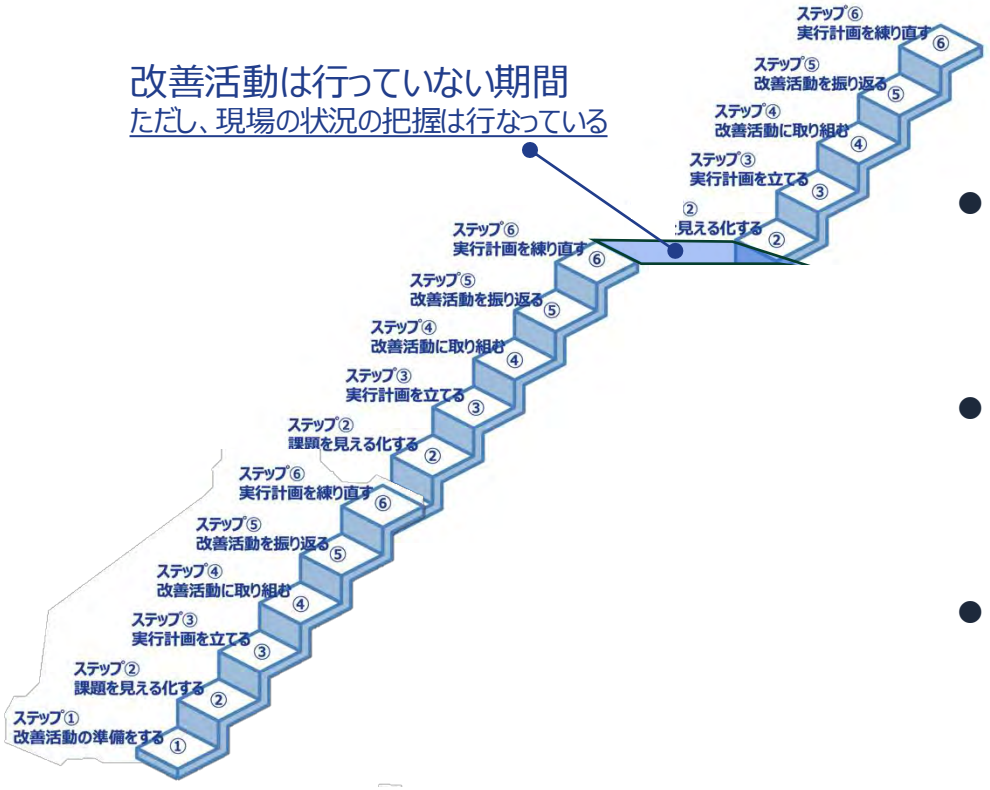


All Rights Reserved. TRAPE Inc.

ステップ6
改善活動を振り返ろう

1 振り返りの対話・分析を元にして、次なる改善活動へ

成果ありー次の課題に取組む
課題ありー再び同様の課題に取組む　など



- 生産性向上やDX（デジタル化）は、一度やれば終わりという「イベント」ではありません
  なぜなら、現場の状況や人員配置、利用者のニーズは、常に変化していくからです
- とはいえ、取り組みを毎回変える必要はありません
  毎月1回、あるいは3か月に1回など、定期的に現場の状況を見直す仕組みを持っておくことで、必要なタイミングで柔軟に対応できるようになります
- 「以前より課題が見えてきた」と感じたときこそ、改善活動を再開する好機です
  小さなことでも、一歩ずつ改善を積み重ねていくことで、理想とする組織の姿に着実に近づいていくはずです

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

伴走支援

外部の力を一時的に借りて、前へ進む方法もあります

③ 生産性向上に取り組む介護事業所に対する有識者の派遣

伴走支援者

目　的

- 実際に生産性向上の取組を通じて得たノウハウや経験を横展開できるような、地域のモデルとなる介護事業所の取組を創出することを目的とします。

実 施 事 項

- 生産性向上の取組を実施しようとする介護事業所に対し、介護現場の生産性向上に向けた職場環境の５Sなど業務内容の見直しやテクノロジーの導入、いわゆる介護助手の活用等に係る有識者を個別に派遣し、助言等の支援を行います。
- 具体的には、派遣先の介護事業所の実態に応じた生産性向上に関する取組手法に関する助言、職員に対する研修等の実施に関する助言、取組の見直しに関する助言等が考えられます。
- 支援を行った介護事業所には、研修会や事業所の見学会などを通じて、地域の事業所にそのノウハウや経験を横展開する形で協力していただきます。

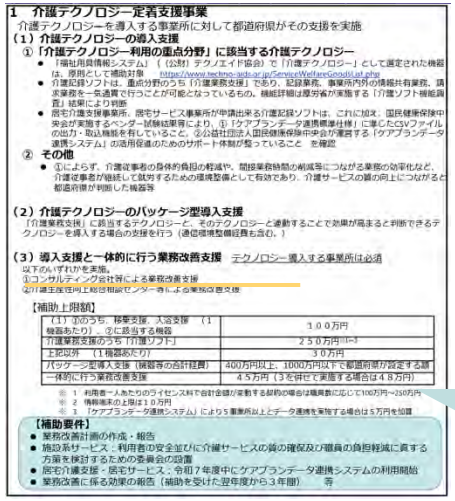
推奨事項・留意事項

- 介護事業所が支援を受けながら生産性向上の取組を行う目的は、支援を通じて何らかの成果を出すことだけではなく、取組の進め方の型を習得して、支援終了後も自律的に取組を進められるようになることです。

「介護生産性向上総合相談センターの設置・運営に係る手引き」令和６年度改訂版より 一部引用

「介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン」に基づき、知識・経験を有する第三者（業務改善支援者）

- 介護テクノロジー導入支援(補助金)
- 介護事業所業務改善支援事業費補助
  （第三者による生産性向上の取組の支援）　などで名前が出てきます



1　介護テクノロジー定着支援事業
介護テクノロジーを導入する事業所に対して都道府県がその支援を実施
（1）介護テクノロジーの導入支援
①「介護テクノロジー利用の重点分野」に該当する介護テクノロジー
- 「福祉用具情報システム」（（公財）テクノエイド協会）で「介護テクノロジー」として選定された機器は、原則として補助対象　（https://www.techno-aids.or.jp/ServiceWelfareGoodList.php）
- 介護記録ソフトは、重点分野のうち「介護業務支援」であり、記録業務、事業所内外の情報共有業務、請求業務を一気通貫で行うことが可能となっているもの。機能詳細は原則各が実施する「介護ソフト機能調査」結果により判断
- 居宅介護支援事業所、居宅サービス事業所が申請出来る介護記録ソフトは、これに加え、国民健康保険中央会が実施するベンダー試験結果等により、①「ケアプランデータ連携標準仕様」に準じたCSVファイルの出力・取込機能を有していること、②公益社団法人国民健康保険中央会が運営する「ケアプランデータ連携システム」の活用促進のためのサポート体制が整っていること　を確認

② その他
- ①によらず、介護従事者の身体的負担の軽減や、間接業務時間の削減等につながる業務の効率化など、介護従事者が継続して就労するための環境整備として有効であり、介護サービスの質の向上につながると都道府県が判断した機器等

（2）介護テクノロジーのパッケージ型導入支援
「介護業務支援」に該当するテクノロジーと、そのテクノロジーと連動することで効果が高まると判断できるテクノロジーを導入する場合の支援を行う（通信環境整備経費も含む。）

（3）導入支援と一体的に行う業務改善支援　テクノロジー導入する事業所は必須
以下のいずれかを実施。
①コンサルティング会社等による業務改善支援
②介護生産性向上総合相談センター等による業務改善支援

【補助上限額】

（1）①のうち、移乗支援、入浴支援（1機器あたり）、②に該当する機器	１００万円
「介護業務支援」のうち「介護ソフト」	２５０万円※３
上記以外（1機器あたり）	１０万円
パッケージ型導入支援（機器等の合計経費）	400万円以上、1000万円以下で都道府県が設定する額
一体的に行う業務改善支援	４５万円（３年併せて実施する場合は４８万円）

※１　利用者一人あたりのライセンス料で合計金額が変動する契約の場合は職員数に応じて100万円～250万円
※２　情報端末の上限は１０万円
※３　「ケアプランデータ連携システム」により５事業所以上とデータ連携を実施する場合は５万円を加算

【補助要件】
- 業務改善計画の作成・報告
- 施設系サービス：利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討するための委員会の設置
- 居宅介護支援・居宅サービス：令和７年度中にケアプランデータ連携システムの利用開始
- 業務改善に係る効果の報告（補助を受けた翌年度から３年間）　等

介護テクノロジー導入支援(補助金)

＜実施内容＞
事業所の状況を踏まえて
・アナログな業務改善
（職場環境の５S）
・介護助手などの活用
・テクノロジーの導入/活用
などの各種手段を用いて
支援をする

事業所の状況を踏まえて
・**テクノロジーの導入/活用**
などの各種手段を用いて
支援をする

＜伴走支援者が介入する目的＞
- 成果を出す
- 取組みの進め方の型を体験してもらい習得してもらう
- 支援終了後、自律的に取り組めるようにする

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

生産性向上関連の加算と どう向き合えばいいのか？

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

生産性向上の取組みが関わる加算

生産性向上
ガイドライン

	処遇改善加算（職場環境等要件）	生産性向上推進体制加算(Ⅱ)	生産性向上推進体制加算(Ⅰ)
ステップ① 改善活動の準備をする	⑰ 厚生労働省が示す「生産性向上ガイドライン」に基づき、業務改善活動の体制構築（例：委員会やプロジェクトチームの立ち上げ、外部研修の活用など）を行っている	**委員会** 3か月に1回以上 管理者・現場職員… テレビ電話装置等を活用可	①利用者の安全及びケアの質の確保 ・介護テクノロジー機器×利用者ファースト×アセスメント&アップデート ②職員の負担の経験・勤務状況への配慮 ・職員にとって働きやすい環境かどうか（心身状況・業務負荷、休憩・残業） ③介護機器の定期的な点検 ・介護機器メンテナンス（点検） ④職員に対する研修について ・介護機器の使用方法の講習など職員研修を定期開催
ステップ② 課題を見える化する	⑱ 現場の課題の見える化を実施（例：課題抽出・構造化、業務時間調査など）		
準備8割			
アナログな業務改善	⑲ **5S活動**（整理・整頓・清掃・清潔・躾）等を通じて職場環境を整備している ⑳ **業務手順書の作成**や、記録・報告様式の工夫による情報共有や作業負担の軽減を行っている		「業務内容の明確化や見直しを行う」 「職員間の適切な役割分担」を実施
テクノロジー活用	㉑ **介護ソフト**（記録・請求連携など自動化）や情報端末（タブレット、スマホ、インカムなど）の導入 ㉒ **介護ロボット**（見守り・移乗・排泄支援など）または職員間連絡を迅速化するICT機器（ビジネスチャットツール等）の導入	**介護機器の活用** ①見守り機器 ②インカム・ビジネスチャットツール（全て職員） ③介護ソフト **1つ以上使用**	**介護機器の活用** ①見守り機器（全ての居室） ②インカム・ビジネスチャットツール（全て職員） ③介護ソフト **全て使用**
介護助手などの活用	㉓ **業務内容の明確化と役割分担**を進め、特に間接業務（配膳・清掃・ベッドメイク等）を介護助手などが担当する体制構築		
成果	**データ提出・成果など求められていない**	**生産性向上の取組み実績データの報告** ①利用者の満足度(WHO-5) ②介護職員1月あたりの総業務時間及び超過勤務時間 ③年次有給休暇の取得状況 **成果は求められていない**	**生産性向上の取組み実績データの報告** ①利用者の満足度(WHO-5) 悪化していない ②介護職員1月あたりの総業務時間及び超過時間 短縮 ③年次有給休暇の取得状況 維持または増加 **成果は求められている** ④介護職員の心理的負担等(SRS-18) ⑤タイムスタディ（日中・夜間複数人-5日間）

All Rights Reserved. TRAPE Inc.

No Role
No Life

All Rights Reserved. TRAPE Inc.